

Living on the Changing Planet : Future Earth Designed by Simulation

午前の部：気候予測の今—地球規模課題対応国際科学技術協力
『気候変動予測とアフリカ南部における応用』成果報告

Swadhin K. Behera
[海洋研究開発機構]

Francois Dufois
[University of Cape Town]

高橋 桂子
[海洋研究開発機構]

Hannes Rautenbach
[University of Pretoria]

東塚 知己
[東京大学]

Francois Engelbrecht
[The Council for Scientific and Industrial Research]

佐久間 弘文
[海洋研究開発機構]

Willem Landman
[The Council for Scientific and Industrial Research]

池田 元美
[海洋研究開発機構]

Neville Sweijd
[Applied Center for Climate and Earth Systems Science]

午後の部：気候予測のこれから—未来の地球に向けて

山形 俊男
[海洋研究開発機構]

皆川 昇
[長崎大学熱帯医学研究所]

西森 基貴
[農業環境技術研究所]

Antonio Navarra
[Euro-Mediterranean Center for Climate Change]

B.N.Goswami
[Indian Institute of Tropical Meteorology]

Chin-Seung Chung
[APEC Climate Center]

Nordin Hasan
[ICSU Regional Office for Asia and the Pacific]

安成 哲三
[名古屋大学地球水循環研究センター]

白山 義久
[海洋研究開発機構]

シミュレーションで切り拓く未来の地球
変化する惑星に生きる

言語：日本語・英語(日・英同時通訳付き)

2013/2月28日(木) 9:30~17:00(開場9:00)

コクヨホール

東京都港区港南1丁目8番35号、品川駅港南口徒歩5分

入場無料 事前にWebサイトより参加お申込みください

<http://www.jamstec.go.jp/apl/j/topics/sympo201302/>

お問い合わせ先：APL シンポジウム事務局

TEL：045-778-5681 FAX：045-778-5497 E-mail：apl-sympo@jamstec.go.jp

主催：独立行政法人海洋研究開発機構 後援：独立行政法人科学技術振興機構、独立行政法人国際協力機構、駐日南アフリカ共和国大使館

変化する惑星に生きる

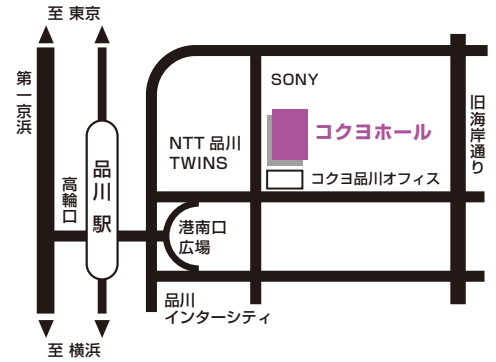
シミュレーションで切り拓く未来の地球

2013/2月28日(木) 9:30~17:00(開場9:00)

会場/コクヨホール

東京都港区港南1丁目8番35号、品川駅港南口徒歩5分

お問い合わせ先: APL シンポジウム事務局
TEL: 045-778-5681 FAX: 045-778-5497
E-mail: apl-sympo@jamstec.go.jp



プログラム (予定)

午前の部: 気候予測の今—地球規模課題対応国際科学技術協力『気候変動予測とアフリカ南部における応用』成果報告

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 9:30 - 9:50 開会挨拶 | 科学技術振興機構/国際協力機構/駐日南アフリカ共和国大使館/海洋研究開発機構 |
| 9:50 - 10:15 亜熱帯ダイポールモード現象と気候予測可能性 | Swadhin K. Behera · 海洋研究開発機構/Francois Dufois · University of Cape Town |
| 10:15 - 10:40 アフリカ南部の季節予測とダウンスケーリング | 高橋 桂子 · 海洋研究開発機構/Hannes Rautenbach · University of Pretoria |
| 10:40 - 11:05 大気海洋結合モデルの高精度化 | 東塚 知己 · 東京大学/Francois Engelbrecht · The Council for Scientific and Industrial Research |
| 11:05 - 11:20 休憩 | |
| 11:20 - 11:45 南アフリカ早期気候予報システムの改良 | 佐久間 弘文 · 海洋研究開発機構/Willem Landman · The Council for Scientific and Industrial Research |
| 11:45 - 12:10 南アフリカ気候研究者とのネットワーク構築 | 池田 元美 · 海洋研究開発機構/Neville Sweijd · Applied Center for Climate and Earth Systems Science |
| 12:10 - 13:40 昼食 | |

午後の部: 気候予測のこれから—未来の地球に向けて

- | | |
|--|--|
| 13:40 - 14:00 季節予測とその豊かな可能性 | 山形 俊男 · 海洋研究開発機構 |
| 14:00 - 14:20 気候変動とアフリカのマラリア流行 | 皆川 昇 · 長崎大学熱帯医学研究所 |
| 14:20 - 14:40 気候変化情報の地域農業振興への応用 | 西森 基貴 · 農業環境技術研究所 |
| 14:40 - 15:00 変わりゆく気候研究のパラダイム | Antonio Navarra · Euro-Mediterranean Center for Climate Change |
| 15:00 - 15:20 休憩 | |
| 15:20 - 15:40 モンスーンミッション: モンスーン予測障壁の見積もり | B.N.Goswami · Indian Institute of Tropical Meteorology |
| 15:40 - 16:00 気候予測とその国家経済、社会への応用 | Chin-Seung Chung · APEC Climate Center |
| 16:00 - 16:20 「未来の地球」: プログラムとその目的、及び実施案の紹介 | Nordin Hasan · ICSU Regional Office for Asia and the Pacific |
| 16:20 - 16:40 「未来の地球」—人類世の今後を考える国際枠組み—について | 安成 哲三 · 名古屋大学地球水循環研究センター |
| 16:40 - 17:00 総括及び閉会挨拶 | 白山 義久 · 海洋研究開発機構 |

入場無料

参加申込み受付

<http://www.jamstec.go.jp/apl/j/topics/sympo201302/>

地球規模の環境変化の下で、エルニーニョ現象やダイポールモード現象などの気候変動現象が世界各地に極端な異常気象を引き起こしています。近年、大規模シミュレーションと地球観測の発展によって、こうした気候変動を半年から一年前に予測することが可能になってきました。予測にもとづいて、事前に対策を行うことで、社会や経済、そして人々の健康への深刻な影響を軽減できることもわかってきました。

本シンポジウムの前半部では、熱帯起源の気候変動だけでなく、亜熱帯起源の気候変動予測について、科学技術振興機構と国際協力機構が共同で実施している地球規模課題対応国際科学技術協力プロジェクトで得られた最新の成果とアフリカ南部地域への展開について紹介します。気候予測は感染症対策や農業計画などの幅広い応用分野を開拓しつつあり、もはや持続可能な未来社会のデザインには不可欠な要素です。シンポジウムの後半部ではシミュレーションが切り拓く「未来の地球」について紹介します。

